

1 調査名称：平城宮跡周辺地域における街路渋滞対策検討

2 調査主体：奈良県

3 調査圏域：奈良市

4 調査期間：平成20年度～平成22年度

5 調査概要：

平城宮跡周辺地域の渋滞対策については、従来から様々な検討や対策がなされてきたところである。

さらに、当該地域には国営公園として整備が予定されており、今後大規模な集客施設となる平城宮跡が含まれているにも関わらず、平城宮跡を横断する近鉄線の踏切等により、南北方向をはじめとして、円滑な交通が確保されていない状況である。

また、国営公園の基本計画策定に先立ち、文化庁がとりまとめた「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」において、宮跡内の近鉄線について『宮跡内の移動動線や景観の観点から支障となるため、移設等を含め将来のあるべき姿について関係機関で協議・検討を進めることが求められる。』とされている。

これらのことを受けて、快適で魅力ある都市づくりを進めるため、近鉄線のあり方を含め、平城宮跡周辺地域における抜本的な渋滞対策の検討を行うものである。

I 調査概要

1 調査名：平城宮跡周辺地域における街路渋滞対策検討

2 報告書目次

1. 業務概要

1. 1 業務目的

1. 2 業務概要

1. 3 業務対象箇所

1. 4 業務フロー

2. 交通量推計

2. 1 前提条件の整理

2. 2 現況再現

2. 3 将来予測

3 調査体制

奈良県土木部まちづくり推進局
地域デザイン推進課都市計画室計画調整係

4 委員会名簿等：

内部検討段階のため委員会等は未設立

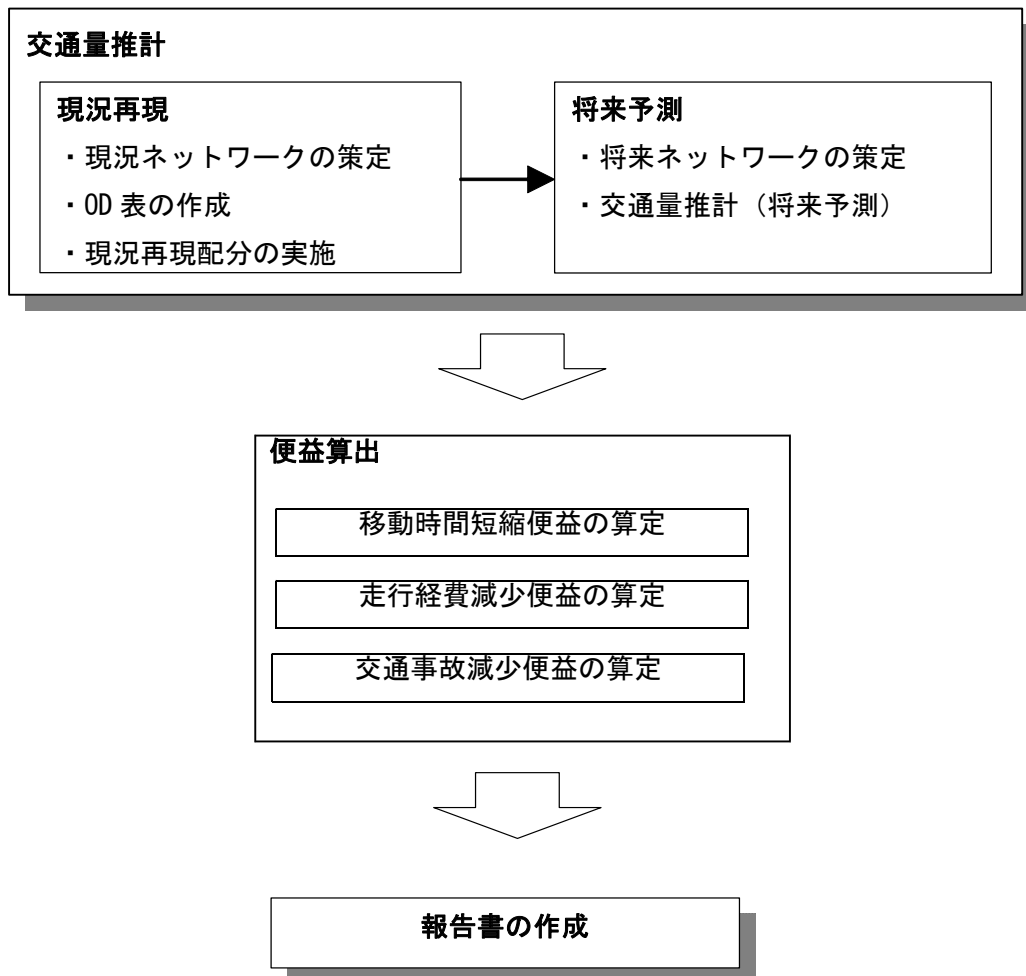
II 調査成果

1 調査目的

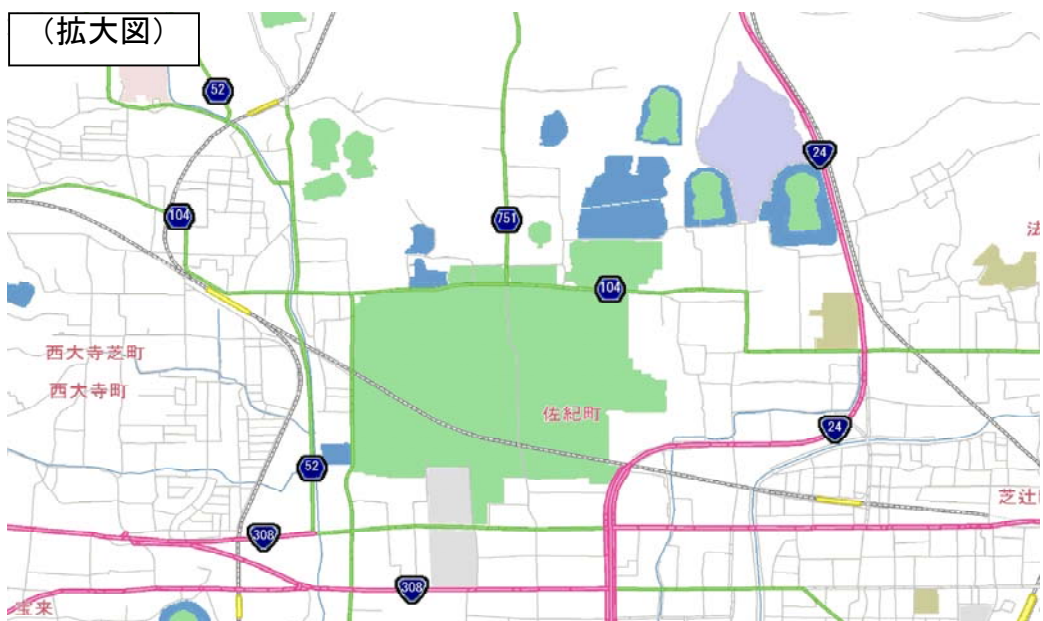
奈良市中心市街地の渋滞対策については、従来より様々な対策がなされているが、平城宮跡周辺地域の近鉄線（奈良線、京都線）の踏切に起因する渋滞が発生している。一方、平城宮跡が国営公園として整備されることが決定している状況であり、平城宮跡を通過する近鉄線については、移設を含めた幅広い観点から検討が進められている。

本業務は、以上の背景に基づき、これまでに検討されている各渋滞対策案について事業手法等を含めた検討を進めていくための基礎資料とすることを目的として、踏切が除却された場合に見込める費用便益分析の検討を行うものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

1. 将来交通量推計結果

将来ネットワークについては、踏切のある場合（「連続立体交差事業整備なし(without)」）、踏切のない場合（「連続立体交差事業整備あり(with)」）の2ケースを設定し、H42交通量予測を行った。

「連続立体交差事業整備なし」の場合は、踏切のあるリンクに対して踏切通過による損失時間が負荷され、「連続立体交差事業整備あり」の場合は、踏切損失時間がなくなるという条件で交通量配分を行った。

将来交通量推計結果を図-1に示す。また、連続立体交差事業の「整備あり」と「整備なし」による将来交通量の増減を図-2に示す。この結果から推定される主な交通流動の変化は、次のとおりである。

- ・各踏切とも「整備あり」の場合に「整備なし」より当然鉄道横断交通量が増加する。踏切の除却により増加する交通は、「整備なし」の状況においては、西大寺駅周辺の横断交通は(都)大和中央道や(主)奈良精華線を利用しており、新大宮駅周辺の横断交通は国道24号を利用していると予想される。
- ・また、「整備なし」の場合の踏切交通量は、現況の交通量に比べ減少するが、これは将来道路網の整備により道路容量に余裕が生まれ、通過に時間のかかる踏切の利用が敬遠され、新規整備路線である大和中央道等の南北幹線に交通が転換するためと考えられる。

図-1 将来交通量推計結果（「連続立体交差事業整備あり」と「連続立体交差事業整備なし」）



図-2 連続立体交差事業整備による将来交通量の変化（「整備ありの交通量」 マイナス 「整備なしの交通量」）

